

2024年3月期

第2四半期決算説明資料

Contents

01 会社概要

02 2024年3月期 第2四半期決算報告

03 中期経営計画

04 2024年3月期 業績見通し

MISSION

セラミックスを源流に、独自・多様な技術を磨き、社会の発展に貢献する。
一味違う強い特長を持つ、質の高い企業グループを目指す。

社名	美濃窯業(みのようぎょう)株式会社
設立	1918年(大正7年) 8月14日
資本金	8億7,700万円
従業員数	連結336名 単体271名

美濃窯業 グループ 事業内容	耐火物事業	
	プラント事業	
	建材及び 舗装用材事業	

所在地	本社:岐阜県瑞浪市寺河戸町719 本社事務所:愛知県名古屋市中村区名駅南1-17-28
-----	--

- 瑞浪工場
- 山岡工場
- 九州営業所
- 東京営業所
- 岩佐機械工業株式会社 (本社)
- 名古屋営業所
- 亀崎工場
- 技術研究所
- 美州興産株式会社 (本社)
- 四日市工場

売上高

69.4億円

前年同期比 +3.4%

営業利益

5.4億円

前年同期比 Δ 2.7%

親会社株主に帰属する
当期純利益

4.1億円

前年同期比 +2.4%

外部環境

内部環境

- 耐火物主要顧客であるセメント業界の国内生産量が14か月連続で前年同月を下回る
- 半導体関連需要の低迷により前年度増加した顧客の設備投資が一段落
- 建材及び舗装用材事業では鉄道各社の業績の回復に伴う設備投資の増加
- 設備改善や生産性の向上への取り組み
- 環境に配慮した事業活動の推進
 - 従来比 最大70%の燃料/CO₂発生量削減可能な次世代省エネルギー型工業炉の開発
 - 経済産業省による事業者クラス分け評価制度で4年連続Sクラス評価を獲得(省エネ法)

耐火物事業は、需要の低迷により減収も、価格改定の進捗及び設備改善や生産性の向上により増益
 プラント事業は、工事部門が順調により増収も、設備部門の低迷により減益
 建材及び舗装用材事業は、鉄道各社向けの売上回復や価格改定により増収・増益

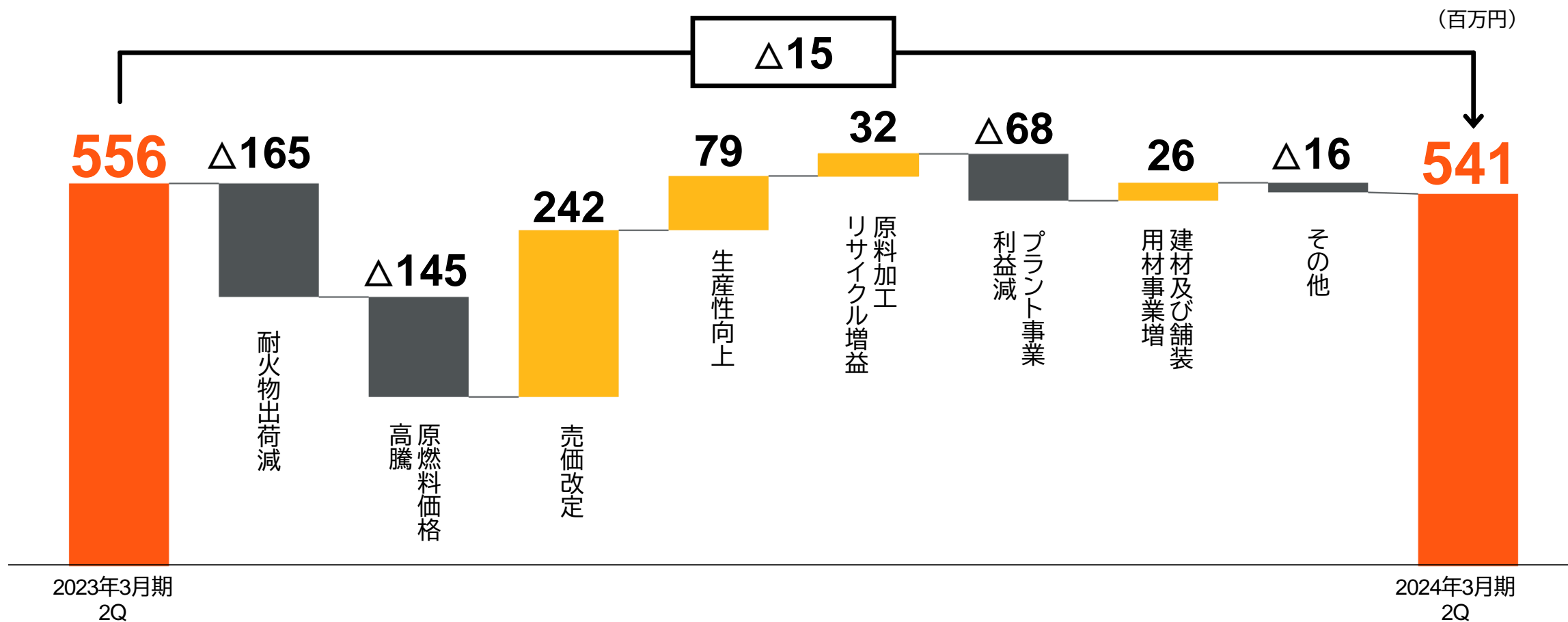
(百万円)

	2023年3月期 2Q実績	2024年3月期		前年同期比 (増減額)	2024年3月期 通期予想※	進捗率
		2Q実績	売上比			
売上高	6,716	6,943	—	+3.4% (+227)	15,000	46.3%
営業利益	556	541	7.8%	△2.7% (△14)	1,300	41.6%
経常利益	609	601	8.7%	△1.3% (△8)	1,350	44.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	400	410	5.9%	2.4% (+9)	950	43.2%
1株当たり当期純利益	39.11円	40.05円	—	+0.94円	92.68円	—

※ 2023年5月15日公表値

◆ 連結営業利益の増減分析 2024年3月期 第2四半期

耐火物事業の原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁が進んだものの、耐火物需要が低迷。また、半導体設備の投資抑制による影響を受けプラント事業が減益となった結果、営業利益は昨年同期比で△15と微減



◆ 連結決算 セグメント別 2024年3月期 第2四半期



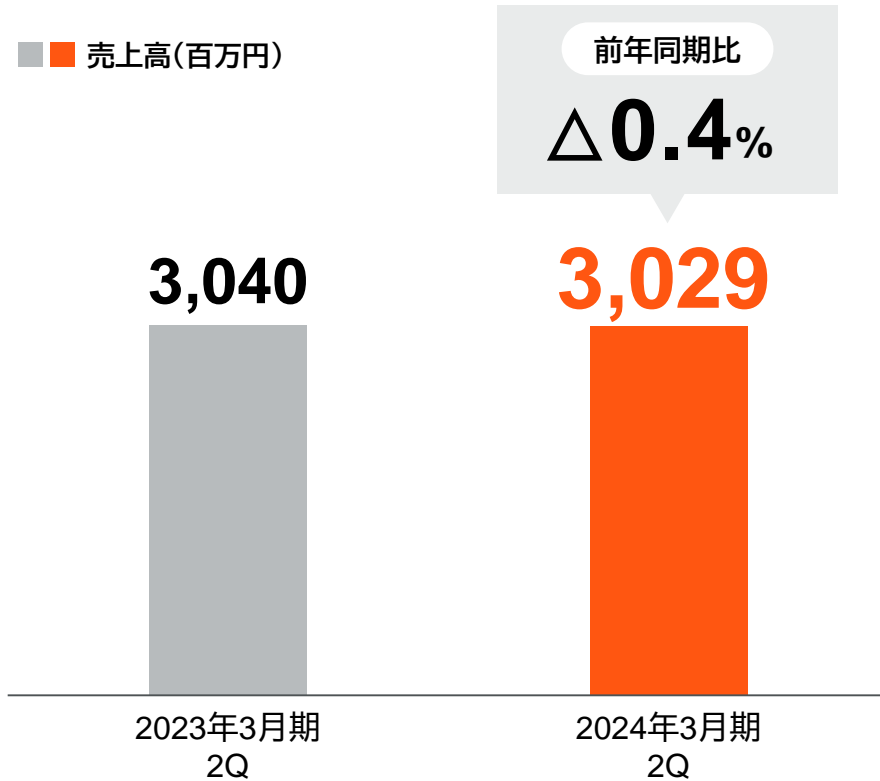
耐火物事業は原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁及び設備改善や生産性の向上により増益、プラント事業は半導体関連需要の低迷により減益、建材及び舗装用材事業は鉄道各社の業績回復に伴う設備投資の増加により増収増益

(百万円)

		2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	前期比
耐火物	売上高	3,040	3,029	△10 (△0.4%)
	セグメント利益	90	101	+10 (+11.7%)
プラント	売上高	2,422	2,605	+182 (+7.5%)
	セグメント利益	335	280	△54 (△16.4%)
建材及び舗装用材	売上高	982	1,033	+51 (+5.2%)
	セグメント利益	23	46	+23 (+100.4%)
不動産賃貸	売上高	189	190	+1 (+0.6%)
	セグメント利益	93	92	△1 (△0.5%)
その他	売上高	80	83	+3 (+3.8%)
	セグメント利益	15	16	+0 (+5.4%)
調整額	セグメント利益	△2	3	+5 -
合計	売上高	6,716	6,943	+227 (+3.4%)
	営業利益	556	541	△15 (△2.7%)

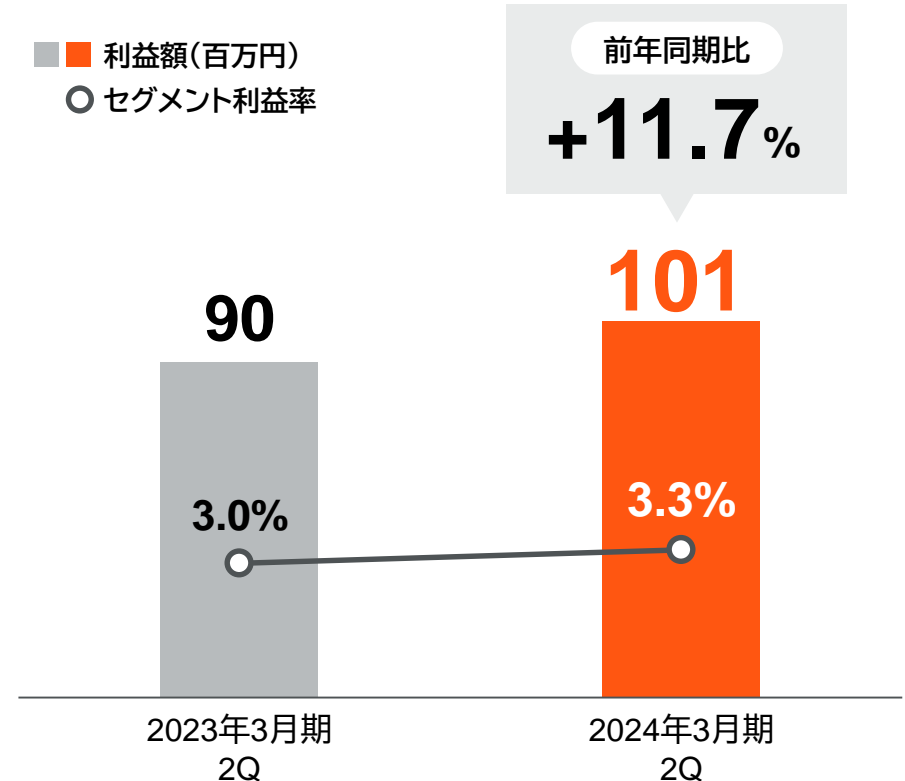
売上高

原燃料価格上昇分の販売価格への転嫁が進むも耐火物需要の低迷により減収



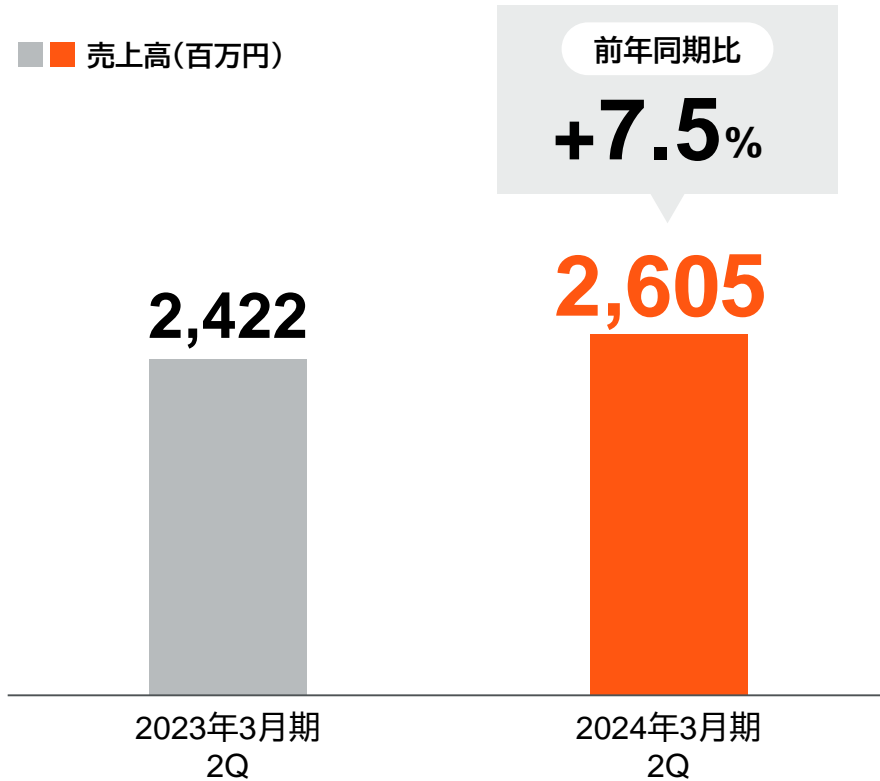
セグメント利益

販売価格への転嫁及び設備改善や生産性の向上により増益



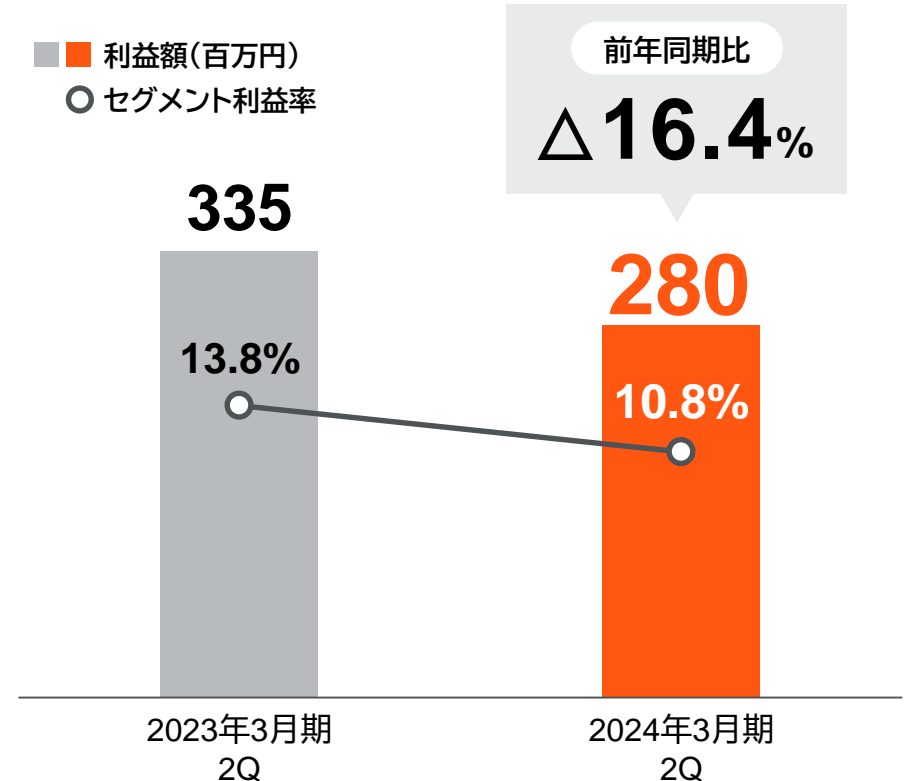
売上高

設備部門は、半導体関連需要の低迷により減収しかし、工事部門は順調に推移し全体では増収



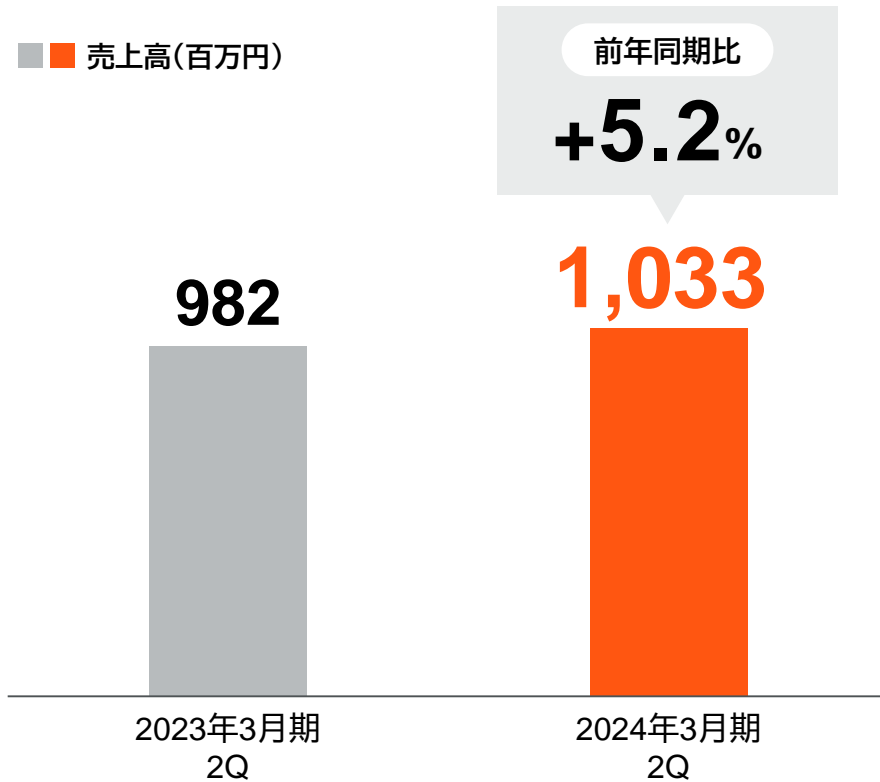
セグメント利益

売上内容の構成差から減益



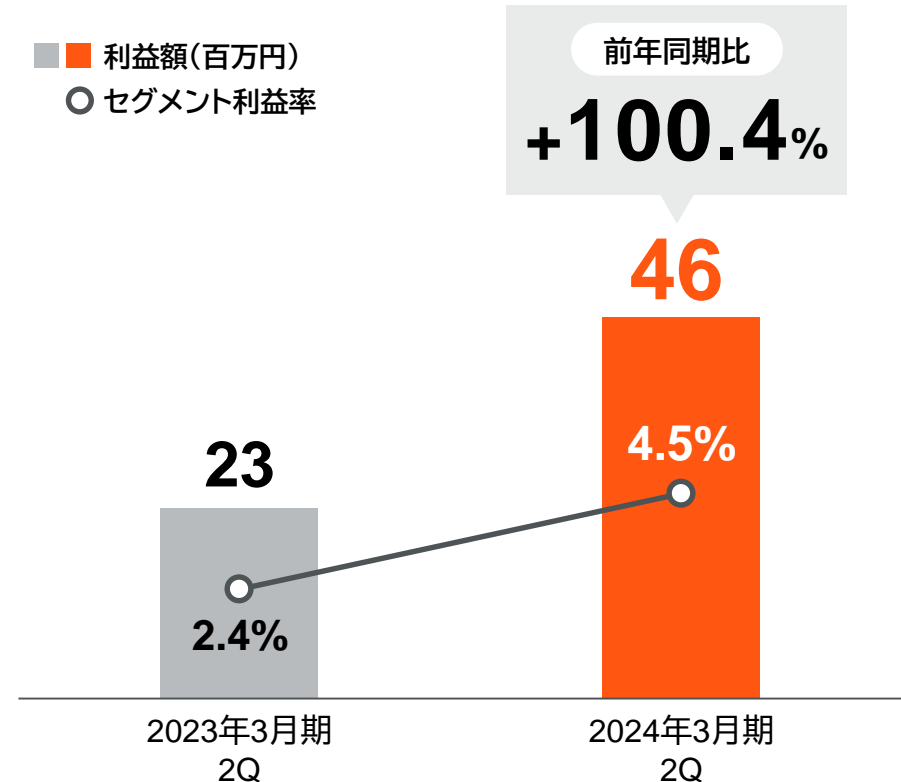
売上高

主要顧客の一つである鉄道各社向けの売上回復、及び各種製品の価格改定により増収



セグメント利益

鉄道各社向けの売上回復により増益



◆ 連結貸借対照表

仕入債務や長期借入金の減少、利益剰余金の増加等により、自己資本比率は67.2%に上昇
健全な財務基盤を確保

	(百万円)			
	2023年3月末	2023年9月末	増減額	
流動資産	11,751	11,242	△508	<ul style="list-style-type: none"> 受取手形、売掛金及び契約資産 $\Delta 977$ 現金及び預金 +260 電子記録債権 +222
固定資産	8,016	7,949	△67	
資産合計	19,768	19,191	△576	
流動負債	5,806	4,923	△882	<ul style="list-style-type: none"> 電子記録債務 $\Delta 315$ 支払手形及び買掛金 $\Delta 265$
固定負債	1,501	1,367	△134	<ul style="list-style-type: none"> 長期借入金 $\Delta 109$
純資産	12,460	12,901	+440	<ul style="list-style-type: none"> 利益剰余金 +251
負債・純資産合計	19,768	19,191	△576	
自己資本比率	63.0%	67.2%	+4.2pt	<p>参考(2023年9月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 有利子負債残高 1,620 D/Eレシオ 0.13倍

◆ 連結キャッシュ・フロー

売上債権及び契約資産の減少等により、現金及び同等物は2,870百万円へ増加
 キャッシュを確保しつつ、中長期的成長を見据えた投資・株主還元を強化

(百万円)

	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	前年同期比	
営業活動による キャッシュ・フロー	389	704	+314	売上債権及び契約資産の減少等
投資活動による キャッシュ・フロー	△137	△ 184	△47	有形固定資産の取得による支出等
フリー・キャッシュ・フロー	252	519	267	
財務活動による キャッシュ・フロー	△129	△ 259	△129	配当金の支払や短期借入金返済 による支出等
現金及び現金同等物	2,500	2,870	+369	



地球環境と自社の双方の持続可能な成長を目指した3カ年計画(2023年3月期～2025年3月期)

経営基盤



安全・法令遵守



生産性改善



学びへの投資

キー戦略



デジタル



サステナビリティ



グローバル



高品質かつ地球環境に配慮した製品やサービスの開発に注力し、デジタルを軸に経営を変革することで、特徴のあるセラミックス企業としての存在感を高め、持続的に成長可能な企業体質をつくり上げる

環境・リサイクルプラント向けの耐火物の販売やエンジニアリングを強化。加えて、次世代省エネルギー型工業炉等のカーボンニュートラルに貢献する技術・製品の開発と事業化を推進

■ カーボンニュートラル関連の事例

次世代省エネルギー型工業炉の開発※1



省エネルギー型熱処理・工業炉
(プロトタイプ、有効容積1.3m³)

1600度以上の加熱が必要となる高温焼成炉について、当社既存炉と比較して約40～70%の燃料使用量削減が可能であることを実証



多孔質セラミックス

炉材として「ゲル化凍結法による多孔質セラミックス」の作製技術を活用した高温用断熱材を使用

TV・新聞でも紹介！



リジェネレイティブバーナー

廃熱回収・再利用機能をもつ「高効率リジェネレイティブバーナー※2」を炉内に実装



水素燃焼バーナー

早期製品化を目指すとともに、当社開発の高効率熱交換器や水素燃焼バーナーとの組み合わせも検討

※1 国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の委託事業で開発
※2 東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社製

デジタル戦略 : デジタル技術による生産性の向上や新規事業開発に注力

グローバル戦略 : 市場動向をとらえた輸出拡大や海外企業との提携強化を図る

■ デジタル

顧客接点

- 高機能セラミックス製造業界への工業炉やセラミックス材料の供給拡大
- 先端テクノロジーを活用した新サービスの開発

社内

- デジタル活用による生産性向上・コスト削減
- 生産工程のIoT・自動化推進

■ グローバル

- セラミックス・耐火物・焼成炉の輸出強化
- 顧客への提供価値拡大を見据え、FLSmidth社をはじめとする海外提携先との関係を強化
- 原料調達最適化(為替・物流等)



◆ 定量目標

顧客業界や原燃料価格の動向を見極め、時代に適合／先取りした製品開発や事業拡大を進める。
最終年度(2025年3月期)の売上高・営業利益・海外関連売上高は過去最高を目指す



	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	2024年3月期 予想	2025年3月期 計画
売上高 (前期比)	12,410	14,609 (+2,199)	15,000 (+391)	16,200 (+1,200)
営業利益 (前期比)	864	1,394 (+529)	1,300 (△94)	1,700 (+400)
ROS(売上高経常利益率)	7.6%	10.5%	9.0%	10.7%
海外関連売上高 (前期比)	520	1,110 (+590)	1,400 (+290)	1,700 (+300)
配当性向	22.6%	23.9%	27.0%	30%程度
投資	760	690	800	910

(百万円)

期初に公表した業績予想から修正なし。

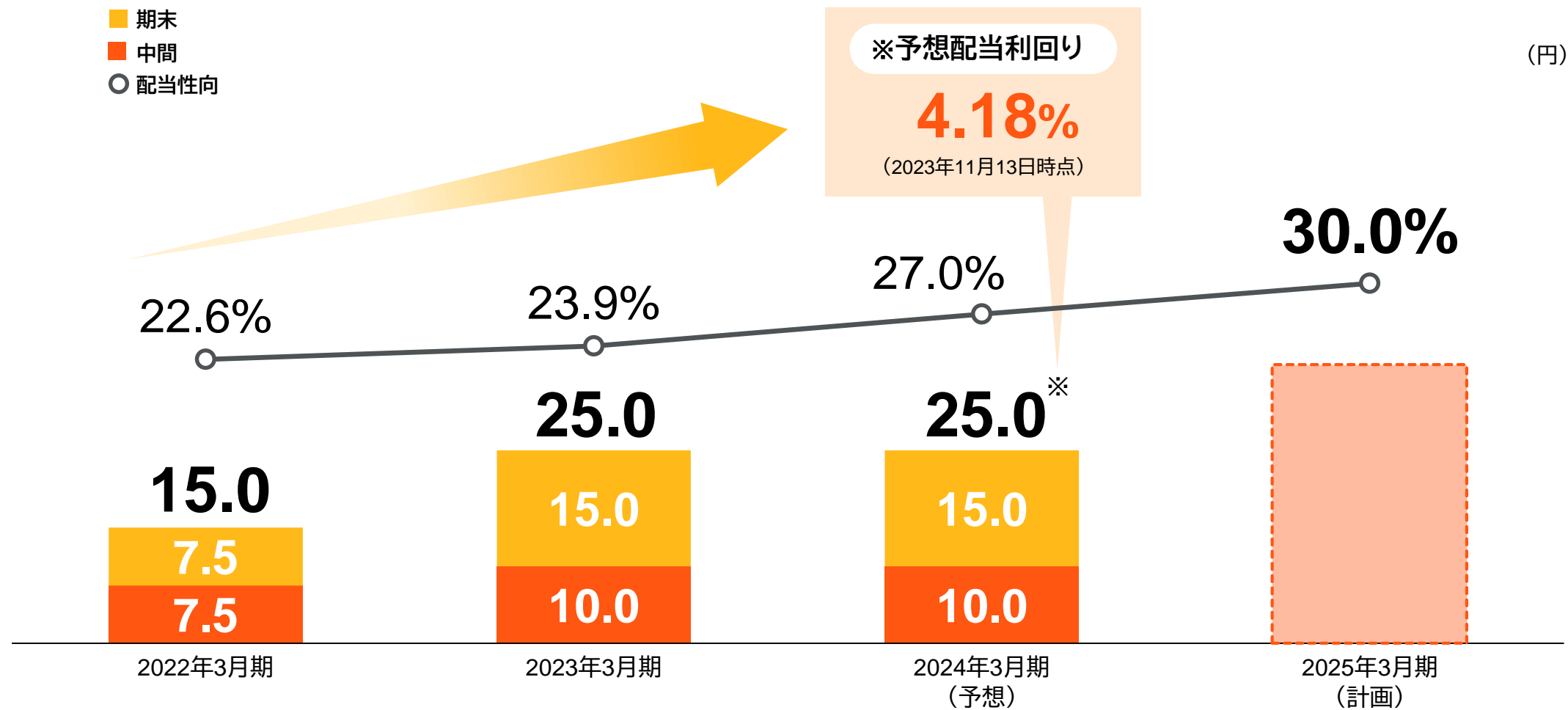
中期経営計画のキー戦略に沿った施策を各事業で推し進め、目標を達成する

(百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期		前期比 (増減額)
		予想	売上比	
売上高	14,609	15,000	—	+2.7% (+391)
営業利益	1,394	1,300	8.7%	△6.8% (△94)
経常利益	1,528	1,350	9.0%	△11.7% (△178)
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,072	950	6.3%	△11.4% (△122)
1株当たり配当金	25.0円	25.0円	—	0

◆ 株主還元方針

財務体質の強化と積極的な事業展開に必要な内部留保を確保したうえで、配当性向30%を目指す



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。